

## 日本人類遺伝学会 第32回 大会記事 (1987)

### Proceedings of the 32nd Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, 1987

The 32nd Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics was held on November 12-14, 1987, in the Gunma-kenmin Hall in Maebashi. Prof. Ken Furukawa, School of Medicine, Gunma University, was the President of the Annual Meeting. Four hundreds and two members participated in the Annual Meeting.

The academic program consisted of one symposium, concurrent scientific sessions and poster sessions. In addition, Prof. Tomoko Ohta, National Institute of Genetics, delivered the special lecture entitled "Multigene families."

Furthermore, Furuhashi-Iseki Memorial Session on "History and Development of the Studies on Blood Groups in Japan" was held. Abstracts of the Furuhashi-Iseki Memorial Session, seven abstracts presented in the symposium, 125 abstracts presented in the concurrent scientific sessions and 35 abstracts presented in the poster sessions are printed in this issue.

The meeting of the Board of Directors of the Japan Society of Human Genetics was held on November 11 at the Gunma Royal Hotel. The main agenda of the meeting consisted of the following: 1) Nomination of President Eiji Inouye for a candidate for a member of the Science Council of Japan; 2) The president of the 34th Annual Meeting; 3) Appointment of officers concomitant with the nomination of the next President of the Japan Society of Human Genetics. After the meeting of the Board of Directors, the Council of the Japan Society of Human Genetics was held on the same day at the same hotel. The General Assembly of the Japan Society of Human Genetics was held on November 12 in the Gunma-kenmin Hall. In these meetings, Dr. Ei Matsunaga, Director of National Institute of Genetics, was approved as a next President of the Japan Society of Human Genetics. In addition, Prof. Teruo Kitagawa, School of Medicine, Nihon University, was approved to succeed Dr. Matsunaga as a member of the Board of Directors. Furthermore Dr. Shiro Miwa, Director of Okinaka Memorial Institute for Medical Research and Prof. Kenzo Takeshita, School of Medicine, Tottori University, were approved as the next Editor-in-Chief and the President of the 34th Annual Meeting of the Japan Society of Human Genetics, respectively.

The agenda and reports in the three meetings are described below in more detail in Japanese.

会 場 群馬県前橋市日吉町1丁目14番14号 群馬県民会館  
会 期 昭和62年11月12日(木)~14日(土)  
大会会長 古川 研 (群馬大学医学部法医学教授)

発 表 特別講演 太田朋子教授 (国立遺伝研・集団遺伝)  
多重遺伝子族

## シンポジウム

## DNA 多型の医学生物学

司会：笹月健彦（九大生医研・遺伝学）

## 学術記念集会

## 日本における血液型研究の歴史と進歩

一前会長 古畑種基先生と井関尚栄先生の功績を記念して一

司会：松永 英（国立遺伝研・所長）

一般演題 160題（講演125題，ポスターセッション35題）

## 第1日（11月12日）

古川大会長の開会の辞に引き続き，午前中は2会場で一般演題の講演があった。昼休みには編集委員会が開催され，午後はポスターセッション（I）討論の後，総会議事およびシンポジウムが行われた。夜は自由参加の人類遺伝学教育協議会が開催された。

## 第2日（11月13日）

午前には引き続き一般演題の発表が行われた。昼休みには研究推進委員会が開催され，午後はポスターセッション（II）討論の後，学術記念集会と特別講演が行われた。講演終了後恒例の記念写真撮影，そして夕刻から懇親会が開かれた。

## 第3日（11月14日）

午前一般演題の発表が行われた。昼休みには用語委員会が開催された。午後は一般演題の発表が継続され，古川大会長の閉会の辞をもって全日程を終了した。

大会への会員参加は402名，うち当日会員は97名であった。出題数はこの数年間はほぼ定着しているが，とくに本年度大会はそれぞれの研究領域で活発な討論が行われた。

## 理事会

日時：昭和62年11月11日 14:30~16:30

場所：群馬ロイヤルホテル

出席者：井上会長，松永・三輪・梶井・佐々木・中込各理事，古川今期大会長，浜口編集委員長，池内・安河内・松井各幹事，今村評議員

## 報告および協議事項

1. 第14期日本学術会議会員候補者について協議を行った。12月上旬に予定されている会員の候補者の選定および推薦人の指名の依頼を待つて学会対応を行うこととし，会員候補者としては井上英二会長を推すことが了承された。
2. 昭和62年10月31日，日本学術会議遺伝医学研究連絡委員会，日本人類遺伝学会，熊本大学医学部遺伝医学研究施設の共催で，遺伝医学公開講演会が熊本産業文化会館において開催されたことが報告された。
3. 松井一郎庶務幹事の任期満了に伴い，後任として今村孝評議員（国立遺伝研・人類遺伝）が委嘱され，本大会後に業務を引き継ぐこととなった。
4. 第34回大会会長および開催地の協議を行った。
5. 次期会長の選出に伴う役員人事とその任期について協議を行った。総会においては次期会長選出後に役員人事と業務分担についての協議と報告を行うこととなった。

## 評議員会

日時：昭和62年11月11日 17:00~19:00

場 所：群馬ロイヤルホテル

出席者：48名

## I. 報告事項

1. 山岡憲二名誉会員のご逝去が報告され、ご冥福をお祈りした。
2. 庶務報告
  - 1) 会員異動状況（昭和61年12月31日現在）が報告された。
  - 2) 評議員選挙，理事選挙，学会賞選考委員選挙の結果が報告された（人遺誌，32：221，1987）。
  - 3) 今期の評議員選挙の異例な経過（人遺誌，32：223，1987）の概略について報告された。これに関連して，日本学会事務センター近藤二郎理事長よりの書面による謝罪について報告がなされ，また同センター今野省造専務理事が本年度第1回理事会においてやり直し選挙の全責任は学会事務センターにあることを確認かつ謝罪し，過ちが生じた事情を説明し，今後このような事態が生じないよう職員指導に務めることを約束したとの報告がなされた。
  - 4) 今期の学会賞選考委員会の開催（昭和62年3月20日），昭和62年度第1回および第2回理事会開催（8月31日，11月11日）が報告された。
3. 会計報告
  - 1) 昭和60年度会計報告および同監査報告がなされ承認された。
  - 2) 昭和61年度会計中間報告がなされた。
4. 編集報告
  - 1) 論文の投稿，受理状況についての報告がなされた。
  - 2) 大会参加・演題申し込み用紙等を来年度から雑誌綴じ込みとすることが報告された。
  - 3) ワーキンググループの経過報告などについての報告がなされた。ワーキンググループ・アンケート調査結果に従って，①投稿規定の一部変更・追加，②英文の最終校閲，③学会抄録の印刷方法，④編集業務の組織化，⑤投稿論文の採択基準などを改善し検討を続けてきたが，本年度から試行を行うこととなった。
5. 昭和63年度大会準備状況報告  
日本人類遺伝学会第33回大会は昭和63年9月8～10日，北海道大学学術交流会館（札幌市）で開催予定である旨の報告が佐々木次期大会長よりなされた。
6. 委員会報告
  - 1) 学会賞選考委員会  
昭和62年度学会賞は慎重審議の結果，該当者なしと決定した旨の報告がなされた（人遺誌，32(2)：221，1987）。
  - 2) 人類遺伝学会用語委員会  
委員会の作業進行状況が報告された。現在は用語案についての評議員の意見聴取を行っている段階であるとの報告がなされた。
  - 3) 研究推進委員会  
重点領域研究の申請を中心に報告がなされた。
  - 4) 人類遺伝学教育協議会  
大会第1日（11月12日）午後6～8時に自由参加の集会を持ち，討議を行う旨の報告がなされた。
7. 理事担当事項等報告

## 1) 学術会議関係

第14期日本学術会議会員選出についての本学会の対応の経過が報告された。また、学術会議第7部・遺伝医学研究連絡委員会の活動について報告がなされ、昭和62年10月31日、日本学術会議遺伝医学研究連絡委員会、日本人類遺伝学会、熊本大学医学部遺伝医学研究施設の共催で、遺伝医学公開講演会が熊本産業文化会館において開催されたことが報告された。

## 2) 国際人類遺伝学会常置委員会

米国人類遺伝学会長 S. M. Gartler 氏が第8回 (1991年) 国際遺伝学会議を Washington, D.C. に招請したいとの申し入れを行ったとの報告がなされ、協議を行った。

## 3) 科研費担当理事から報告があり申請件数は増加しているが採択件数は不変ないし減少傾向にあることが示された。

## 4) 日医用語委員会等の報告があった。

## 8. その他

第16回国際遺伝学会が1988年トロントで開催されることが報告された。国立遺伝学研究所においてDNAデータサービスが開始されたことが報告され、また国際疾病分類 (ICD) 改訂作業、特別養子制度の新設などが報告された。

## II. 協議事項

- 井上会長の任期満了に伴う次期会長候補の選出とこれに伴う役員補充および任期について協議を行った。会長候補として松永英理事を総会に推薦することが全員一致で承認された。これに伴う理事および学会賞選考委員の補充選出についてそれぞれ次点得票者 (理事は北川照男評議員、学会賞選考委員は岡島道夫評議員) の繰り上げが了承され、その際の理事・学会賞選考委員の任期は松永氏の残任任期とすることが承認された。上記を一括して総会に提案することが了承された。
- 次期幹事の委嘱 (庶務幹事・今村孝評議員、編集幹事・中込弥男理事、会計幹事・安河内幸雄評議員、留任) が報告された。また次期編集委員長は編集委員会開催後に委嘱することが報告された。
- 理事業務分担が協議され、次のように決定された。  
会計；笹月理事、日本医学会評議員；中込理事、科研費関係；中込理事、IGF；梶井理事、遺伝子操作協議会委員；佐々木理事、日医用語委員；笹月理事、会計監査；梶井理事。また北川照男評議員の理事就任が総会で承認されたならば、同理事は会計監査を分担することとなった。
- 第34回大会会長、開催地についての協議を行い、大会長竹下研三鳥取大学教授のもと開催されることが提案され了承された。

## 総会記事

## I. 報告事項

## 1. 庶務報告

会員の異動状況 (表1)、評議員選挙・理事および学会賞選考委員選挙の結果、学会賞選考委員会の開催、理事会の開催、幹事の交代について報告がなされた。

## 2. 会計報告

昭和61年度会計報告 (表2) および同監査報告がなされ承認された。引き続き昭和62年度会計中間報告 (表3) がなされた。

表 1 会員の異動状況 (昭和61年12月31日現在)

会員の種類	現在数	入会	退会	増減
普通会員	国内	58	63	-5
	国外	19	1	3
名誉会員	国内	1	2	-1
	国外	9	0	±0
機関会員	国内	0	6	-6
	国外	1	0	+1
維持会員	3	0	0	±0
計	1,003	61	74	-13

表 2 昭和61年度会計報告 (61.1.1~61.12.31)

取 入		支 出	
前年度繰越金	7,547,456 円	雑誌刊行費	4,725,449 円
会 費	4,736,305	雑誌発送費	386,175
雑誌売上代	491,750	雑誌編集費	200,000
論文掲載料	338,550	大会補助金	300,000
広告掲載料	125,000	事務費	1,591,146
文部省科研費	1,420,000	会議・旅費	396,556
医師会助成金	200,000	人件費	740,000
預金利子	323,033	次年度繰越金	6,842,768
計	15,182,094	計	15,182,094

(実収入 7,634,638)

(実支出 8,339,326)

実収入 7,634,638 - 実支出 8,339,326 = △704,688

表 3 昭和62年度会計中間報告 (62.1.1~62.10.31)

取 入		支 出	
前年度繰越金	6,842,768 円	雑誌刊行費	2,853,092 円
会 費	4,748,656	雑誌発送費	123,580
雑誌売上代	347,250	雑誌編集費	200,000
論文掲載料	295,400	大会補助金	300,000
広告掲載料	100,000	事務費	417,641
文部省科研費	1,390,000	会議・旅費	757,445
預金利子	180,509	人件費	455,000
		I G F 会費	64,400
計	13,904,583	計	5,171,158

(実収入 7,061,815)

## 3. 編集報告

論文の投稿, 受理状況, 大会申し込み用紙等の雑誌綴じ込み, ワーキンググループの活動状況などについての報告がなされた.

## 4. 昭和63年度大会準備状況について

佐々木次期大会長からの報告があった.

## 5. 委員会報告

学会賞選考委員会, 人類遺伝学用語委員会, 研究推進委員会, 人類遺伝学教育協議会についてそれぞれ報告があった.

## 6. 理事担当事項等報告

学術会議関係, 国際人類遺伝学会常置委員会, その他の報告がなされた.

## II. 協議事項

1. 井上会長の任期満了に伴い, 次期会長候補として松永英理事が推薦され満場一致で了承された.
2. 松永氏の会長就任に伴う理事・学会賞選考委員の補充選出につきそれぞれ北川照男評議員と岡島道夫評議員が推薦され承認された. その任期は残任期間の昭和64年までとすることとなった.
3. 次期編集委員長として三輪史朗理事, 庶務幹事・今村孝評議員, 編集幹事・中込弥男理事, 会計幹事・安河内幸雄評議員(留任)の委嘱と理事業務の分担(評議員会の項の通り)が報告された.
4. 第34回大会会長, 開催地についての協議を行い, 大会長竹下研三鳥取大教授のもとで開催されること が了承された.

(庶務幹事 松井一郎)